

日医工MPI行政情報

<http://www.nichiiko.co.jp/stu-ge/>

ジェネリック市場予測（MPI推計）

－2022年のGEシェアを80%と仮定－

株式会社日医工医業経営研究所(日医工MPI)

(公社)日本医業経営コンサルタント協会認定 登録番号第4217号 菊地祐男



資料No.20150301-384S

株式会社日医工医業経営研究所

資料解説

MPIでは、2022年までのジェネリック市場について、数量シェア、金額シェアの推計を行った。

ジェネリックの数量シェアは、新指標の政府目標が「2017年度60%」とされているが、現在はそれを上回るペースで伸張しているため、その目標が変更される見込みである。そこでMPIでは2022年に80%が達成されると仮定し、それまでの期間を隔年で推計した。

推計に際しては、先発医薬品の開発・販売状況や制度・政策の見込みなどを積み上げて予測することが困難なため、各データ会社のプレスリリースなども参考にMPIが独自に推計した。

「2022年80%」は、現状の市場の勢いが継続するとしてMPIが仮定したものであり、企業の経営目標を提言するものではなく、今後日医工株式会社が公表する計画とは一致しない可能性がある。

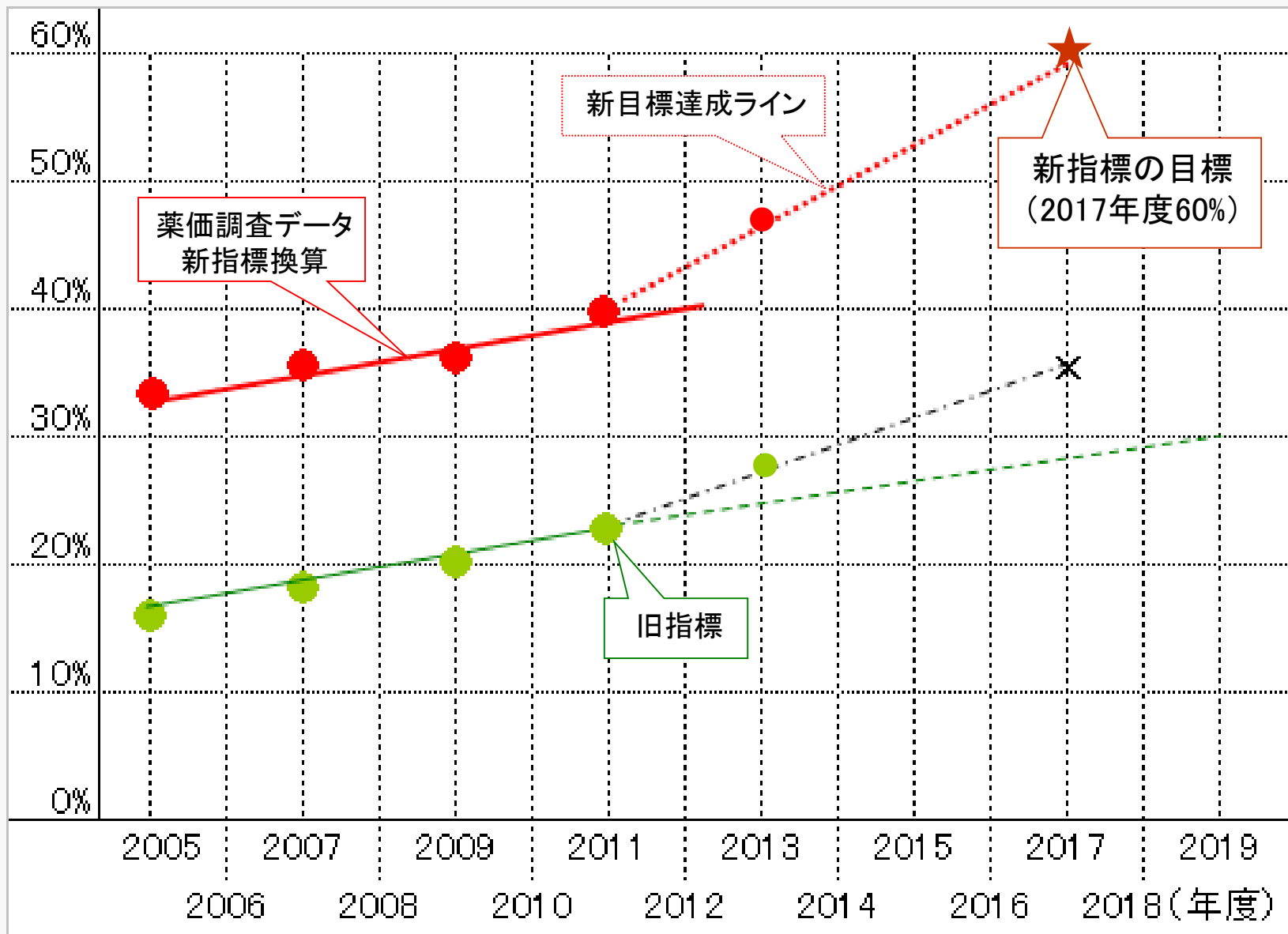
MPI推計の数量シェアグラフ（p5）によると、財務省が提案している「2017年80%」は相当に厳しい目標設定に見えるが、「2020年80%」であれば対応は可能であり、新目標となる可能性は高い。

MPI推計の金額シェアグラフ（p6）は、数量シェア推移から推計し、2022年のジェネリックシェアは旧指標（緑線）で17.0%とした。

今後の医療用医薬品市場がほとんど伸長しないと仮定し、2022年の医療用医薬品市場が11兆円とすると、ジェネリック市場は1兆8700億円となる。

新たなジェネリックシェアの目標が設定されると、それが達成するように多くの政策が実施されることになり、薬価制度、保険者対策、高額療養費、DPC、診療報酬改定などが検討されている。しかし薬価制度の改定は賛否が分かれており、実施されるまではさらに議論が続くと予想する。

ジェネリック数量シェア推移(厚労省薬価調査)

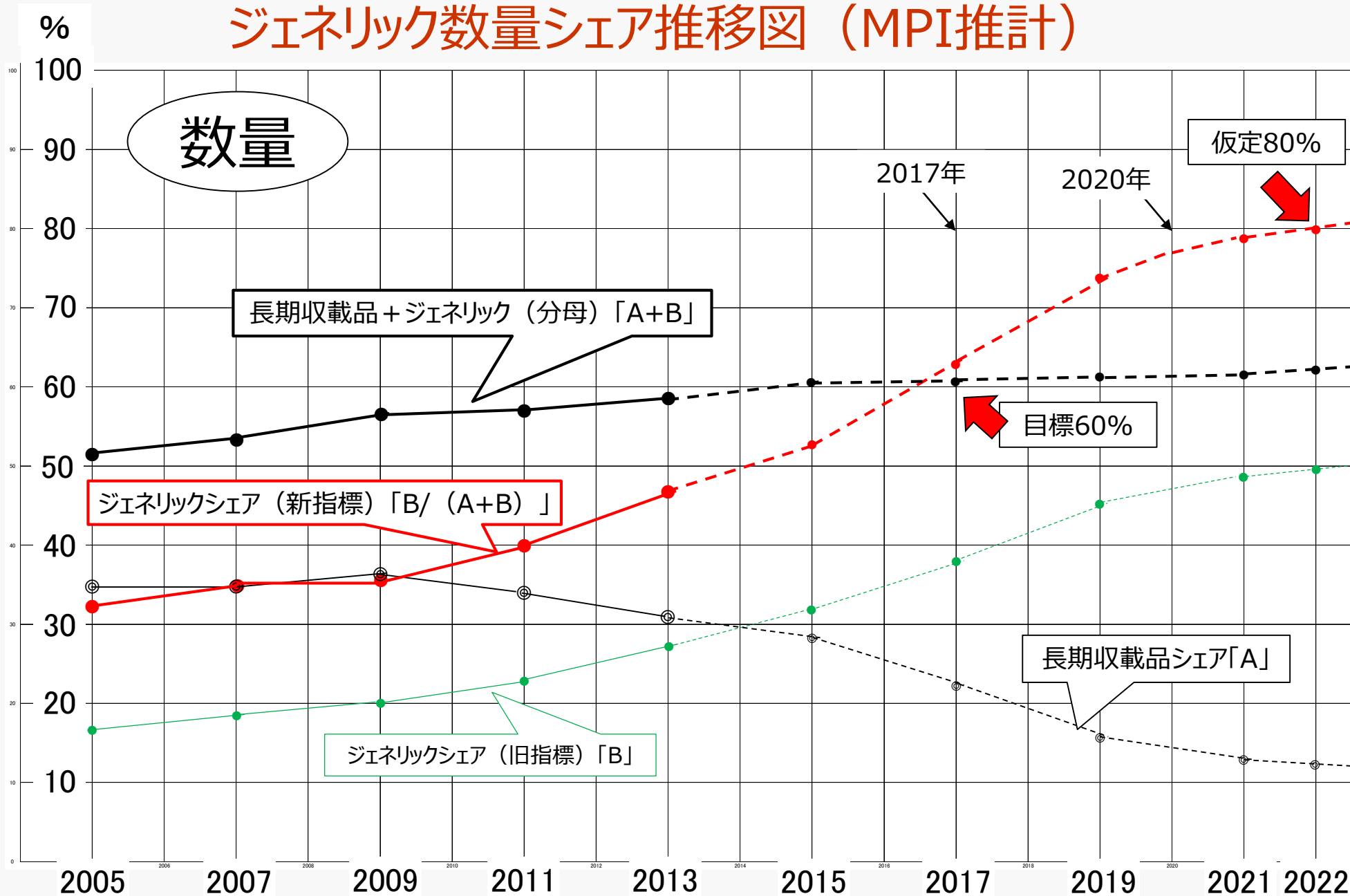


ジェネリック（数量・金額）シェア推移（MPI推計）

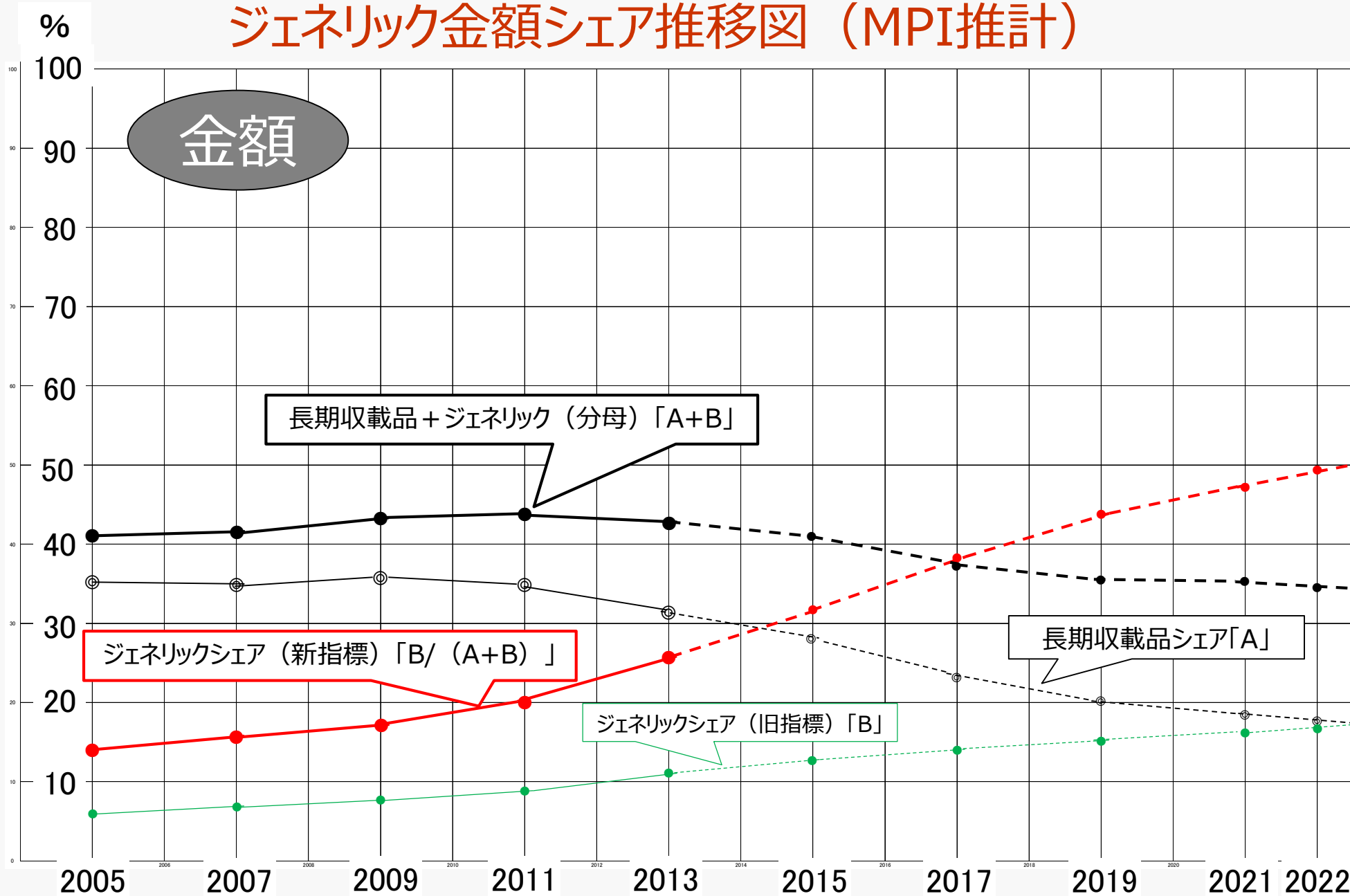
数量シェア			厚生労働省 薬価調査(各年9月)					日医工MPI推計				
			2005年	2007年	2009年	2011年	2013年	2015年	2017年	2019年	2021年	2022年
先発品	後発品なし		21.4%	21.6%	18.9%	19.1%	18.2%					
	後発品あり (長期収載品)	A	34.9%	34.9%	36.3%	34.3%	31.2%	28.5%	22.5%	16.0%	13.0%	12.5%
旧指標シェアの後発品		B	16.8%	18.7%	20.2%	22.8%	27.6%	32.1%	38.3%	45.5%	48.9%	50.0%
その他の品目 (局方、生薬等)			27.0%	24.8%	24.6%	23.9%	23.0%					
(新指標の分母)		A+B	51.7%	53.6%	56.5%	57.1%	58.8%	60.6%	60.8%	61.5%	61.9%	62.5%
新指標シェアの後発品		B/A+B	32.5%	34.9%	35.8%	39.9%	46.9%	53.0%	63.0%	74.0%	79.0%	80.0%

金額シェア			厚生労働省 薬価調査(各年9月)					日医工MPI推計				
			2005年	2007年	2009年	2011年	2013年	2015年	2017年	2019年	2021年	2022年
先発品	後発品なし		47.6%	49.0%	47.8%	47.9%	49.3%					
	後発品あり (長期収載品)	A	35.4%	35.1%	35.9%	35.2%	31.7%	28.0%	23.0%	20.0%	18.5%	17.5%
旧指標シェアの後発品		B	5.9%	6.6%	7.6%	8.8%	11.1%	13.0%	14.3%	15.5%	16.5%	17.0%
その他の品目 (局方、生薬等)			11.2%	9.3%	8.7%	8.1%	8.0%					
(新指標の分母)		A+B	41.3%	41.7%	43.5%	44.0%	42.8%	41.0%	37.3%	35.5%	35.0%	34.5%
新指標シェアの後発品		B/A+B	14.3%	15.8%	17.5%	20.0%	25.9%	31.7%	38.3%	43.7%	47.1%	49.3%

ジェネリック数量シェア推移図 (MPI推計)



ジェネリック金額シェア推移図 (MPI推計)



ジェネリック市場環境変化要因

薬価制度

- ジェネリック薬価の一本化 [2012年度（集約等）、2014年度（3区分等）]
- 薬価の毎年改定
 - ・2016年～2018年の3年連続薬価改定
 - ・2015年～2017年の3年連続薬価調査
 - ・2018年以降の毎年薬価改定
- 参照価格制
 - ・成分でグループピング→品目単位（長期収載品とジェネリック）
 - ・グループ内の最低薬価基準→ジェネリック薬価の平均値基準

その他

- 保険者機能の強化（ジェネリックの使用割合に応じて後期高齢者支援金を減算）
- 高額療養費制度
- DPC（後発医薬品係数）

基準の再設定

- ・DPC（後発医薬品係数）
- ・後発医薬品調剤体制加算
- ・Z2の基準（置き換え率の上限）

処方箋様式の再変更（変更不可理由記載義務化）

出来高病院の診療報酬評価（ジェネリック使用割合）

どうか今日のお話が、
皆様のお仕事のお役
に立てますように！



医療従事者のための
ジェネリックと行政情報サイト
<http://www.nichiiko.co.jp/stu-ge/>

どなたでも
**登録
無料**

スタジー
Stu-GE

特典
1

メールマガジンの配信
Stu-GEの更新情報や講演会情報などをお知らせします。最新の情報をいち早くチェックしていただけます。

特典
2

会員専用サイトの閲覧
MPI資料の解説動画など、登録いただいた方専用のコンテンツをご覧いただけます。MPI作成資料などをより深く理解していただけます。